

<ご案内>

2019年9月25日

NPO 海のくに・日本&ウーマンズフォーラム魚

「横浜大さん橋マルシェ」にキッチンカー「クジラ号」が初参加！ クジラ料理販売の他、クジラ・トークセッション、商業捕鯨時代の映画上映も！

海と海洋資源の大切さを伝える活動を推進している「NPO 海のくに・日本」と「ウーマンズフォーラム魚」は、9月28日、29日に開催される「第13回横浜大さん橋マルシェ」でクジラ料理の販売、商業捕鯨時代の記録映画と調査捕鯨のドローン映像の上映、「クジラにまつわるトーク・セッション」をおこないます。ぜひ、お越しください。ご参加ください。（映画とトークセッションは事前にお申し込みくださいますようお願いいたします）

「横浜大さん橋マルシェ」は、2017年2月に横浜初の岸壁市場として始まったもの。普段は入ることができない岸壁、全国の生産者が出店するとあって、毎回多くの来場者を集めています。第13回目となる今回は、神奈川県内で生産・販売されている農産物などが集められる「神奈川県産品ゾーン」、全国の特産品が集まる「全国産品応援ゾーン」、地産食材を活用したオリジナルメニューを提供する「地産地消飲食ゾーン」、地場の魚や野菜、フルーツをアピールする「横浜中央卸売市場ゾーン」、大学生が神奈川や福島農家の農家や飲食店とコラボして新鮮な野菜や果実を届ける「大学ゾーン」の5つのゾーンに全国からの出店者が集います。



名称：第13回 横浜港大さん橋マルシェ

日程：2019年9月28日(土)～9月29日(日)

時間：10:30～16:00

場所：横浜港大さん橋国際客船ターミナル 山下公園側エプロン
(岸壁)

入場：無料

※荒天中止

▼交通アクセス・最寄り駅

・みなとみらい線「日本大通り駅」徒歩7分

・JR、横浜市営地下鉄「関内駅」徒歩15分

◆横浜は、クジラと深いかわりがある土地

「NPO 海のくに・日本」と「ウーマンズフォーラム魚」が同マルシェへの参加を決めたきっかけは、今年7月、30年ぶりに商業捕鯨が再開となったこと。「いま、商業捕鯨再開の意味を考え、クジラ食の栄養的価値を広く世のなかに伝えるのに、クジラと縁が深い横浜での活動は意味深い」と考えました。

理由のひとつは、160年前にペリー提督が浦賀港に現れた目的が捕鯨船の補給であったこと。当時のアメリカは、照明や機械の潤滑油として鯨油を使用していたため、日本近海のマッコウクジラが必要でした。

そして、自社球団に大洋“ホエールズ”の球団名をつけた大洋漁業（現マルハニチロ）や日本水産が横浜に捕鯨基地を置いていた歴史。さらに、会場となる大さん橋が、大きくくじらの背中のような形状から、「くじらのせなか」の愛称を持っていることにも縁を感じました。

◆キッチンカーでは、クジラの多様な味わいを紹介するクジラ料理2品を用意

キッチンカー「クジラ号」で販売するのは「くじらステーキ」と「くじら汁」。「くじらステーキ」は、低脂肪低コレステロールのヘルシーな赤身ステーキで、適度な歯ごたえを楽しめます。くじら汁はクジラの皮つきの脂身を塩漬けた「塩クジラ」と野菜を具材とした味噌汁で、夏のスタミナ食として食されてきた郷土料理です。

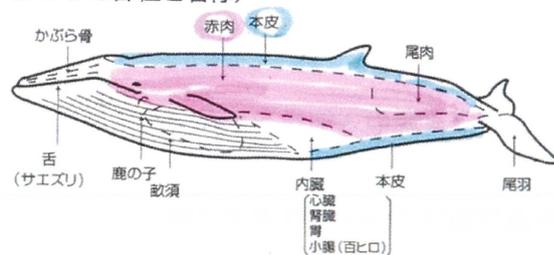


くじら汁（本皮入り）



くじらステーキ（赤肉）

〈クジラの部位と名称〉



鯨は頭から尻尾まで美味しい食材です！

販売時間は、28日、29日ともに10時30分～16時を予定しています。

※2日間で500食、ステーキは2枚で300円、くじら汁は1杯100円予定

◆捕鯨にまつわる映像の鑑賞にぜひ！

29日（日）10時30分からは、日本が続けてきた鯨類捕獲調査をドローンで記録したドキュメンタリーおよび、商業捕鯨時代に撮影された日活映画『荒い海』を上映。（受付は10時～。参加無料）

「荒い海」は渡哲也、高橋秀樹、和泉雅子、田村正和主演で撮影された昭和30年代の娯楽大作。南氷洋で操業する捕鯨船で働く若者たちの成長ものがたりです。ロケ地は南氷洋、ベーリング海、アフリカ西海岸、小樽港、八戸港、神戸港の各地に及びます。

◆横浜と鯨がテーマのトーク・セッション参加で、クジラに関する知見を深めていただきたい

また、同日13時30分からは「クジラ・トークセッション」を開催して、クジラと横浜のゆかりについて、ゲストと参加者が自由に意見を交換し合います。参加が予定されているゲストは横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授の川添裕先生、水産庁捕鯨班長の榎隆人さん、横浜魚市場代表の坪倉良和さん、横浜ボランティアガイドの山形和弥さん、クジラ料理自慢の根岸憲夫さん、大貫圭さん、NPO海のくに・日本の白石ユリ子理事長他。トークセッション参加者には「鯨の下敷」のプレゼントがあります。（受付は13時～。参加無料）

今回の3つの活動をとおして、『アメリカが横浜に開港を求めた歴史』『鯨と日本人のかかわり』などをテーマに、楽しく情報交換できる場にしたいと思っています。

またクジラに限らず、日本の魚食の価値についても発信したいと考えています。日本の海は世界第6位の広さである上、寒流である親潮と暖流である黒潮がぶつかり合っていることから、冷水性の魚と暖水性の魚の両方が生息しています。海洋国家・日本で培われてきた豊かな漁村文化や魚食文化を、こうした機会をとおして広く皆様に普及・伝承していきたいと考えています。今後も全国各地でのイベントに参加したり独自の企画を通じて、豊かな海洋資源を次世代につないでいくことの大切さを伝え続けてまいります。

「NPO海のくに・日本」 & 「ウーマンズフォーラム魚」事務局

〒104-0061 東京都中央区銀座3-12-15 銀座細谷ビル2階・4階

TEL 03-3546-1291 FAX 03-3546-1164 gyo@wff.gr.jp

携帯 080-1378-4114（担当：佐藤）